

おこんじょうり

アニメーション
35ミリ
カラー／25分
日・英・独・仏・西・
伊・タイ・インドネシ
ア・アラビア語版

■企画・制作
桜映画社
株式会社エコー

スタッフ

■原作
さねとうあきら
■製作
村山英世
岡本忠成
■脚本・演出
岡本忠成
■人形
保坂純子
■背景
岩佐ひろみ
渡辺静子
■作詞
東川洋子
■アニメーション
藤森誠代
長崎 希
吉田 悟
■撮影
田村 実
■音楽
高橋祐次郎
■録音
甲藤 勇

■声の出演
長岡輝子
他

文部省特選〔推薦〕中央児童福祉審議会 優秀映画鑑賞会 日本
映画ペンクラブ特別推薦 第37回芸術祭大賞 1982年教育映画祭最
優秀作品賞・文部大臣賞 第37回毎日映画コンクール大藤信郎賞
第25回厚生省児童福祉文化賞 第3回赤十字映画祭特別大賞・最優
秀賞 第7回動物愛護映画コンクール優秀賞・文部大臣賞 1982年
キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位

桜映画社とエコーが共同制作した映画『おこんじょうり』は、ま
じないで厄払いするいたこのお婆さんと、狐のおこんの間にめばえ
た、ほのぼのとした心の交流、互いに思いやる心の温かさを描いて
いる。さねとうあきらの創作童話『おこんじょうり』を原作とし
て、岡本忠成が人形アニメーションにした。その岡本忠成も、この
映画に推薦のことばを寄せてくれたアニメーション作家の手塚治虫
も今はいない。



すいせんのことば 手塚治虫

「おこんじょうり」はさねとうあきさんの原作だそうです。しかし、この映画はまちがいなく岡本さんの創造した作品であり、82年度に生み出されたアニメの傑作と申してよいでしょう。「あれはだれ」という糸くずを使った実体アニメの名作、あの精神がこの映画にもいっぱい溢れています。それは生きものへの限りなく暖かいはげましの目です。この映画でもおばさんとおこんの生きる努力と助け合いが、せつせつと、時には力強く描かれ、現代人が忘れかけている素朴な感動を目覚めさせます。それは岡本芸術に共通するすばらしいテーマです。

それにしてもおこんの色っぽさとかかわいらしさはどうでしょう。夕焼けの山道の美しさと共に、見事な技術がアニメとしての価値を最高のものにしています。(原文のまま)

制作にあたって 岡本忠成

この作品を制作するのに次の事項に注意しました。

主人公のキツネが語るじょうりをどんなものにするか？ 話が東北の田舎のものだから、文楽の義太夫節のようなものでなく津軽三味線を用いてもっと土くさく、詞章も単純でユーモラスな楽しいものをと心がけました。画面としては、キャラクターと背景を郷土玩具にある張り子や泥人形美術様式で統一し物語の雰囲気を生かせるようにしました。

劇中の語りやセルフは長岡輝子さんをはじめ、東北出身の方々の協力で本格的なものをねらいました。もちろん他府県の人でも理解できる範囲のことですが、方言にある多様性や美しさが失われつつある現在、こんなささやかな作品の中にも少しはとどめておきたいと思いました。

そしてこの作品全体からは、打算や物欲の中からでさえ芽生えてくる真実の愛情という主題を通して、人と人(動物)とのつながりのせつなさ、美しさ、他人への思いやり、やさしさといったものが観客に少しでも伝わればと願っています。(原文のまま)

まじないで厄払いをする、いたこ(巫女)の婆さまは、最近もうろくして、へまばかりやってふさぎこんで寝こんでいた。そんなある夜、腹をへらしたきつねのおこんがやってきた。おこんがじょうりをうなると、婆さまは、すっかり愉快的気持ちになって、まがった腰もしゃきとなった。そこで婆さまは、おこんをねんねこで背中に隠して、村びとの病気を直しに出かけたが……。さびしい者どうしの婆さまとおこんとの出会いから、2人がくりひろげるユーモラスでほのぼのとしたやりとり、その中にしみじみとした、ふれあいの温かさを描き出す。

